

イトヨ

Gasterosteus aculeatus aculeatus

トゲウオ科



イトヨ

名前の由来

巣をつくるときに、オスが糸状の粘液を出すのに由来するという。「ヨ」は「魚」のこと。漢字名：糸魚

特定種

十勝のイトヨに関しては特になし
 (「春採湖のイトヨ《太平洋型》」個体群)が、北海道レッドデータ・地域個体群(Lp) (「イトヨ《日本海型》」が、

北海道レッドデータ・留意種(N) (「福島以南の陸封のイトヨ太平洋型」が国のレッドリスト(2007)・絶滅のおそれのある地域個体群(LP))

形態的特徴

全長約5~10cm。背ビレ前方の3~4棘(=トゲ)は互いに遊離している。



イトヨにはウロコはなく、鱗板がある。また、背ビレ前のトゲは3(~4)本で、はなれている。

類似種と見分け方

トミヨ類(イバラトミヨ、エゾトミヨ、トミヨ)。陸封型イトヨ。

トミヨ類は背ビレの棘(=トゲ)が7~13であるのに対し、イトヨは3~4。また上から見るとトミヨ類の尾ビレの付け根は細くなっているのに対し、イトヨは半円形の隆起(隆起骨)がついている。



類似種のイバラトミヨ。トミヨ類の背ビレ前のトゲは7~13本。(撮影：妹尾優二)

一生

降海するもの：春から初夏にかけて河川に遡上し、巣作り・産卵をおこなう。ふ化後2~3cmに育つまで淡水域で過ごし、秋までに海へ下る。

海では沿岸や潮溜まりに生息する。1年で成熟する。産卵場所は小川の流が緩やかで底が砂泥質、水草の多い場所。水辺の草や水草を利用して、トンネル状の巣を作る。卵は

巣内に産み付けられる。産卵後一生を終える。寿命は(多くの場合)1年。

降海しないもの：産卵期は4~6月が普通であるが、10月まで産卵するものもいるという。1年で成熟し、産卵後一生を終える。寿命は(多くの場合)1年。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期(河川)				■			■	■	■	■		
孵化期(河川)				■			■	■	■	■		
幼魚期(河川または海)	■			■								
成魚期(河川)				■			■			■		

降海型は遡上 (3月~5月)

降海型は海へ下る (7月~10月)

産卵 (4月~6月)

産卵後死ぬ (9月~10月)

生息環境・分布

産卵場所は小川の流が緩やかで底が砂泥質、水草の多い場所。海では沿岸や潮溜まりに生息する。

分布：北半球の亜寒帯から温帯に分布。

国内では、日本海側で山口県を西限、太平洋側で利根川を

南限とする本州各地と北海道の海岸に近い平野部の河川、池沼に分布。

十勝地方では、十勝の河川に広く分布する。上流域には生息せず、下流～中流の岸边や、支流、沼・池に多い。

食性

肉食性。水生昆虫、小型甲殻類、魚卵、仔魚などを食べる。

繁殖生態

産卵期は4月上旬～6月下旬。小川や用水路の流れの緩やかな砂泥底で産卵をおこなう。

産卵期のオスは青色が濃くなり、のどから腹部にかけて赤色を呈する。オスは、なわばりを確保すると底にすり鉢状の小さなくぼみを作る。水草の繊維などをくわえて運び、自身の分泌粘液で固めて泥をかぶせ、トンネルを掘って巣とする。

その後「ジグザグダンス」でメスを巣に呼び寄せて、巣内に産卵させる。産卵後メスはトンネルの反対側から出ていく。

1回の産卵数は30～150粒。巣内に産み付けられた卵に放精後、オスは卵や稚魚を保護するという。産卵数は30～150粒。水温15℃の時約10日で、18～19度で8日前後でふ化。多くのものは、生後1年で成熟して産卵後一生を終える。

他生物との関わり

魚食性の動物の餌となると思われる。イトウの餌ともなるという。

興味深い話

■ニコ・ティンバーゲン（動物行動学者、1973年ノーベル医学生理学賞）の行動実験（求愛ダンス）の材料として用いられた。求愛ダンスとは「ジグザグダンス」とも言われ、水草などによる巣作りをおこなったオスが、腹のふくれたメスを見つけた時にする行動（泳ぎ方）。これによって巣内に導かれたメスは、オスに尾柄をつつかれることで卵を産み落とし、トンネルの反対側から出て巣から離れる。

■産卵後オスは胸ビレで新鮮な水を送り込むなどして、卵や稚魚を保護する。また、のどから腹に赤い婚姻色を見せた別のオスがなわばりに侵入すると、果敢に攻撃する。飼育下の場合、水槽の外の赤い布などにも反応するという。

■唐揚げや天ぷら、かす煮などにして食べられる。

■トゲウオ類一般に関して、河川改修などで環境が変化しているためなのか、最近は植物の茂る排水溝や沼などに多く生息している。（妹尾優二）

■イバラトミヨと比較して個体数が少ない。流れの緩やかな川岸の草のかぶった場所では、網で容易に捕獲できる。

■一般の陸封型イトヨとは違い尾板部まで鱗板を有する陸封型イトヨの生息地として、天然記念物に指定（1934）されている本願清水は、福井県大野市の「糸魚町（いとよちょう）」にある。

■十勝地方のアイヌ語ではトゲウオ類一般に、「ロコム」、「ラカン」、「アユシチェブ」と呼ばれる。

配慮事項

降海するものでは下流域の小川と海との間の移動が容易であることが大切。水生植物の存在や水質が良好であること、緩やかな流れと岸際に生育する草などが重要。

トゲウオ一般に言えることだが、環境の変化にもろく、また、鑑賞魚業者やマニアによる密漁から保護するため、生息地の公表に注意を払う必要がある。

参考文献

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、山海堂、1996

「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1990

「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター 2001

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」

「昭和61年度 アイヌ文化財調査報告書(アイヌ民俗調査VI)」北海道教育庁社会教育部文化課（編）、北海道教育委員会 1987

★ 妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

〈インターネットページ〉

「福井県のすぐれた自然データベース」福井県福祉環境部自然保護課 <http://www.erc.pref.fukui.jp/gbank/tokusei/d0007c.html>

「レッドデータブックやまぐち」山口県

<http://eco.pref.yamaguchi.jp/rdb/html/05/050019.html>

「本願清水イトヨの里」<http://www.itoyo.net/study.htm>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類